令和７年度　日本大学スポーツ科学部　個人研究費　研究実績報告書

所属： スポーツ科学部　競技スポーツ学科
資格： 准教授
氏名： 澤野大地.

研究課題名	競技力向上のためのトレーニングの取り組みについての研究
研究目的及び研究概要	陸上競技の棒高跳びにおいて、記録の向上はポールの素材の進化によって飛躍的に伸びてきた歴史がある。しかし現在では世界で6m00cmを超える選手が次々と出現（2024年9月27日現在計29名）し、また現在6m26cmとなっている世界記録（Armand Duplantis, 2024年9月27日現在）は、ここ数年毎年のように更新されている。さらにSergey Bubkaが台頭していた30年程前から比較すると、世界記録が向上しているだけでなく、世界トップレベルのパフォーマンスが非常に高いところで安定して発揮されている。陸上競技の中でも特に技術性の高い種目であり陸上競技で唯一ポールという道具を使う棒高跳において、何故このようなハイパフォーマンス化が起きているのか、その取り組みについて具体的な研究はされていない。 本研究では、陸上競技・棒高跳の世界トップアスリートと指導者を対象として、パフォーマンス向上における実践的な取り組みについて量的・質的に分析・検討し、特徴を明らかにすることにより、スポーツ全般におけるコーチングの基礎的資料を提示することを目指す。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	【研究の進捗状況】 本研究では20歳代前半で最高の競技力まで発達・発展させ，そして30代後半においても最高の競技力を維持（発揮）できた現棒高跳日本記録保持者を対象として、大きな技術変更を試みた前後の取り組みについて比較検討することを目的とした．技術変更に関しては，助走の技術変更が行われた前後に分けて「棒高跳におけるコツの調査」を行った． 【得られた成果】 以下のことが明らかになった．１）対象者は技術変更を行うことにより，キャリア後期においても高い競技力を維持できた．２）対象者は，動作技術の学習し直しにおいて，それまでとは違う運動刺激を導入することによって自身の感覚的には全く新しい技術に取り組んでいるという事態を作り出していた． 上記の内容を日本コーチング学会第37回学会大会にてポスター発表をした． 【今後の課題】 上記内容を2026年度日本陸上競技学会誌に論文投稿予定である． 【研究実績等】 論文①：竹安智広，運上実咲，元吉尚美，進藤大典，中島理恵，小沼直子，澤野大地，林宏行，田中佐知子「薬学部生及びスポーツ科学部生におけるアンチ・ドーピングに関する意識及び知識の比較研究」社会薬学，Vol.44，No.2，2025年8月，110-119. 論文②：澤野大地，近藤克之，久保賢志，井川純一「スポーツ活動を通じた社会情動的スキル及び非認知能力の育成：学術的知見の整理と課題」スポーツ科学研究，第10集，2026年3月，39-44. 論文③：久保賢志，三角さやか，井川純一，近藤克之，澤野大地，八尋風太「大学主体のスポーツ教室は保護者が抱える課題解決にどのような貢献ができるのか」スポーツ科学研究，第10集，2026年3月，15-22. 論文④：近藤克之，青山清英，澤野大地，久保賢志，井川純一「父娘関係とスポーツの相互作用を活かした社会実装型研究に関するナラティブレビュー」スポーツ科学研究，第10集，2026年3月，23-30. 学会発表①（ポスター発表）：澤野大地，近藤克之，土屋弥生，伊佐野龍司，豊田翼，篠﨑明彦，田中丈太郎，青山清英「世田谷区立小学校と大学の連携による「かけっこ教室」の実践報告」大学地域連携学会第5回大会，2025年11月29日. 学会発表②（ポスター発表）：澤野大地，豊田翼，青山清英「選手の多年準備における競技力の維持と技術変更の関係についての考察 -棒高跳日本記録保持者の場合-」日本コーチング学会第37回学会大会，2026年3月5日.